

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103010		
法人名	社会福祉法人高佳会		
事業所名	長森いきいき倶楽部		
所在地	岐阜市前一色4-6		
自己評価作成日	平成22年9月6日	評価結果市町村受理日	平成22年11月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170103010&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>建物は京都の町屋をイメージしており、入浴で使用している浴槽は信楽焼にて特注の物を使用し、利用者様には温泉気分を楽しんで頂いております。 認知症ケアに関しても竹内式に学び、車椅子から歩行器、オムツ使用から下着へと治す認知症に日々努力しております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>社会福祉法人が運営するグループホームで、市の郊外にあり、7年目を迎える。少し歩けば田畑が広がり、北に金華山と岐阜城が眺められる。随所にこだわりを持って建てられたホームは、高齢者が憩うことが出来、安心・安全な介護が提供できるよう配慮されている。管理者始め職員は、認知症およびケアに対し、より理解を深め、最善の支援が出来るよう、研鑽し実践している。家族が困り果てている困難ケースにも、利用者や家族の状況を受け止め、一緒に検討し、受け入れを積極的に行っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で理念を復唱し、共有している。	「ゲストに満足と笑顔を、地域に安心と輝きを」の理念を掲げ、3ユニット合同の朝礼で、理念を毎日唱和し共有している。住み慣れた地域の中で安心と、笑顔のある暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は出勤時や退勤時、ご近所の方とすれ違う時は挨拶を交わし、散歩の時も利用者と共に、挨拶をしている。毎月30日を地域福祉の日と設定し、周りのゴミ拾いを行っている。	職員が同行して朝夕散歩をしている。散歩コースは、地元の人達の散歩コースでもあり、挨拶を交わしあっている。近くのコミュニティーセンター内にある図書館で、本の貸し出しを利用したり、隣家の自治会の重鎮に、慶弔の付き合い方を折に触れ相談している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オムツ外しの事例を発表したものをオムツ業者が地域へは発信している。家族会では、オムツ講習を開き、多くの家族が「ためになりました」等の感想を話される。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に利用者様ご本人や御家族が参加されている。避難訓練等のDVDを見て頂いた際、防災の物に対してのご家族様からのご理解を頂いています。	利用者、家族、民生委員、自治会長、市担当者、地域包括支援センター職員が参加し、2ヶ月に1度開催している。主にホームから、事業報告・入退居者報告・ケアサービスの取り組みについて報告している。会議は事業所からの報告が主となっている。	家族、地域関係者、保険者に、ホームの行事への参加を依頼するなど、ホームでの体験を通して意見交換を行い、共同した運営推進会議となるよう取り組みを検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を始め、事業で行われた実績など常に報告している。認知症ケアを治すという実践に伴い竹内先生が来る予定だった際、岐阜市には後援を頂く。	利用者の問題や難解事項など介護保険課に問い合わせ、常に相談し確認しながら取り組んでいる。市が開催する研修には、積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の動きに制限を設けることは、認知症の進行につながる事を認識し、家庭的な環境の中で、見守りができている。中庭には、センサーが設置されている為、自由な行動に対し、対応出来ている。	身体拘束ゼロの方針を実践しており、認知症ケアに対する拘束の弊害を職員が周知徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	在宅時に虐待を受け入れ、家庭的なケアを行っている。		

岐阜県 グループホーム長森いきいき倶楽部

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	4月オープンした長森いきいき倶楽部アネックスに入居の方は成年後見人制度を活用されている。その方が組んでおられるバンドを共に支援し9月26日グループホームにてライブ予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より十分な説明が行われている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。家族会でのアンケートを実施。苦情をいただいた際の改善点を書面化し、実施。	家族会の参加者が多く、当日渡しのアンケート用紙に意見が寄せられる。その中で、『家族に連絡する窓口を重複しないよう統一してほしい』、『温かい飲み物を出してほしい』などの意見が寄せられ、実行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや日々の会議で意見を交わしている。	ミーティングや会議において、職員から出された「介護記録様式」の改善、リビングの雰囲気作り、居室不明の防止で考案した木の表札など、意見を取り入れ反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与前の面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月行う全体会議での研修、新人研修 日々の業務後、今日一日のシフトでの疑問点などその日に解決している。他、研修へも職員を順番に出向いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先で同業者と交流が持っている グループホーム協会への参加など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には管理者又は、ユニットリーダーがアセスメントを実施利用者の介護への意向や生活歴等の聞き取りを行い、その方へのニーズを読み取り、安心して頂けるような環境作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者又は、ユニットリーダーによるアセスメントの実施で御家族様の介護に関する希望を伺っている。ご本人様が、安心して頂けるようご希望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入居に対し何を期待し、何を不安がられているのかを読み取ることを心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や食事、掃除などの家事等を共に行い、在宅に近い生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族による通院、買い物等の外出等、常に連絡を取り合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美術の教師であった方は居室にご自分の絵が飾られている。喫茶店へ行くことが習慣だった方は近所のモーニングへ行ったり他ユニットでコーヒーを飲むなどを行っている。自衛官勤務だった方など、ドライブを行っている。	教え子が訪ねてきたり、知人が畑仕事の帰りに仕事着のまま寄り、お茶を飲みながら歓談していく。利用者の希望に合わせ、好きなコーヒーを飲み喫茶店に出かけたり、教会のミサに同行するなど馴染みの継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や居室等、トラブルが起きないように、予測を行う支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も行事などに参加したり相談にのってもらいたいという御家族からの要望に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の聞き取りから、利用者の思いに添った対応をしている。その後も職員間で情報を共有し、対応について話し合っている。どの時間帯でも入浴出来る体制、又、夕食時は晩酌を楽しんで頂いている。	日々の生活やケアの場面で、思いや意向を把握している。把握が困難な人は、表情や動作から思いを汲み取っている。思いや意向は、不安のない生活に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用者、御家族から聞き取り、把握している。馴染みのある家具などをお持ちいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックを行い、朝礼では夜勤の申し送りをしている。職員の交代時にも情報を共有し確認しあっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当職員がモニタリングを行い、管理者、ケアマネ、職員でサービス担当者会議を行っている。	本人、家族の意向確認を、日常生活支援の中で取り入れている。サービス担当者会議で、居室担当者が気づきや思いを伝え、職員の意見交換を行っている。それをもとに、ケアマネジャーがサービス計画を作成し、再度担当者と検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録へ詳しく記載し、ケアプランの実施状況は表から読み取れるようになっている。それを基に見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の思いに添った対応ができるよう取り組んでいる(マッサージ・リハビリマシンの利用等)。		

岐阜県 グループホーム長森いきいき倶楽部

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のコミュニティセンターやスーパー、喫茶店、雑誌等、利用者の必要な地域資源を利用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携病院、在宅時より馴染みのある病院など、それぞれの利用者の希望に添ったかかりつけ医がいる。毎週金曜日の往診日の前日は、提携医が経営される訪看さんが、全利用者のバイタル・体温の状態を把握に来館下さる。	利用前に、希望のかかりつけ医を確認している。現在は、数名を除き、ホームの提携医をかかりつけ医としている。毎週往診の前日は、かかりつけ医の指示で看護師が訪問し、利用者の状態を確認している。かかりつけ医は、認知症に造詣が深く、適切な医療支援を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護師に日々の状態を伝え、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、ソーシャルワーカーと連絡を取り合い関係を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ぎりぎりまで訪看の協力を得ながら生活支援を行い、入院後2週間程で亡くなられたケースあり	入居前に重度化になった場合の方針を、事前に説明し、提携医との24時間体制の医療連携が図られている。	利用者および家族が、ホームの生活に馴染み、終末期ケアを希望するケースがある。事業所は、受入を前向きに検討しており、その実現に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調を崩された際、訪看との連絡をとり、居室にて点滴を行い、なるべく環境を変えない配慮を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っている。消防に協力的な方(近所)とも交流を深める。DVDで、レベルの共有を行う。夜勤災害が予測される際は、夜勤以外に宿直者を配置。	昼夜想定避難訓練を消防署の協力により行っている。運営推進会議で、災害時における地域との相互協力を確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	既往症を尊重し、配慮ある言葉掛けを心がけている。ご利用者の今ではなく、歴史を振り返り、尊厳を持った接し方に徹する。	利用者の生活歴を把握し、好まれる呼び方、声のかけ方等に注意し、意識した声かけを行っている。利用者の行動に意味があるととらえ、否定せず、プライドの保持を考慮しながら対応を探っていき、問題解決にあつたている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択や疑問形で声掛けをし、利用者の自己決定を促している。パン・ご飯など食事も選択して頂く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の声から1日の予定を決めるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容、男性は髭剃り、女性は化粧、起床時入浴時の洋服選び等の支援をしている。 2ヶ月に1度美容室にてパーマや毛染めなどを行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ノンアルコールビールやパン食の提供を行っている。 誕生日には利用者の好きなメニューになっている。	職員が1ヶ月ごとに、利用者の嗜好を取り入れた献立を作成している。食事の準備や後片付けには、身心の状態に応じて利用者も参加している。食事は、職員が利用者と同じ食卓に着き、一緒に食べながら、見守りや介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮し煮干でだしをとる。下肢の浮腫軽減の為、高たんぱくを摂取できるように肉料理を提供する。水分は、1日1300～1500cc摂取。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。 定期的な歯科往診を実施している。		

岐阜県 グループホーム長森いきいき倶楽部

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を見て早めの声掛けにより、パット内の汚染や失禁を少なくしている。排泄コントロールする事により、この夏、4名の方が昼間リハパンから下着に移行できている。	十分な水分、栄養、運動を取り入れた認知症ケアを学び、排泄の自立支援を実践している。排泄リズムを把握し、排泄パターンを確立することで、従来の布パンツへの移行が可能になった利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	青汁の提供を行っている。 水分摂取と運動で便秘予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴日を設けている。また朝から就寝前まで好きな時間に入っただけしている。職員の勤務時間変更により、夕食後、入浴をして頂ける環境整備。	入浴日は、信楽焼の浴槽から湯があふれ出ている。夕食後の入浴もできる等、利用者の希望に添った入浴時間となるよう、職員の勤務体制を整え、ゆったり楽しめる時間配分をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝はご本人のペースに合わせる支援。昼間の対応により、夜間は良眠に導く支援。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助は間違いのないよう利用者の名前、日付等確認している。毎週月曜日に薬剤師より指導を行っていただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物、園芸、音楽等利用者の希望に合わせた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月2回利用者の希望に添った外出行事を行っている。日々も散歩やドライブ、買い物に出掛けている。	利用者の体調や希望を確認し、毎日、午前と午後に分け、施設の周辺を散歩している。週1回、日用品の買い物・ミニドライブを行い、季節を感じてもらう行楽行事も計画して、出かけている。	

岐阜県 グループホーム長森いきいき倶楽部

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者に合せて、買い物へ出掛けた際は会計をしていただいている。現在、お財布にお金を入れて、安心した生活をできている方がみえる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やハガキで入居前の知人や家族とやりとりをしている。 自室に固定電話を置く		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や展示物で季節感を出している。折り紙、貼り絵等にて季節の作品を作成している。アロマ設置により、匂いも楽しんで頂いている。	居間に面した中庭は、手入れが行き届き、光が差し込み、居心地の良い雰囲気を提供している。家族会の際にバーベキューなどを行い、楽しみの場となっている。廊下には、くつろげる休憩コーナーが設けられ、利用者の刺繍の作品も飾られてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファや畳、ピロティ等でゆっくりとくつろいでいただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた馴染みのある家具で、居心地よく過ごしていただいている	和室と洋室があり、趣味や生活歴に応じて選択出来、道具や家具が置かれ、落ち着いた部屋作りがされている。居室の入り口には、個々に飾りが楽しめる小ケースや木製の表札が掲げられ、部屋を間違えない工夫がされている。室内は防炎カーテンを使用し、安全面にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー。廊下やトイレには手すりがある利用者様の「できること」「分かること」を理解し、その方にあわせた対応をしている		